

世界の恒久平和を願って

平和大使が平和記念式典に参列

平和大使派遣事業は、平和への理解を深めてもらうため、青少年を被爆地へ派遣する取り組みです。大使として広島市を訪問した中学生は、平和であることの尊さをどのように感じたのでしょうか。

平和大使派遣事業とは

この事業は、被爆地となった広島市へ次世代を担う青少年を派遣し、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の

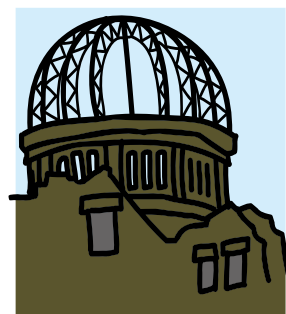
尊さについてあらためて考え、理解を深めてもらう取り組みです。現地では、広島平和記念式典への参列や被爆関連施設の見学、全国から集まった子どもたちとの交流などを行いました。



平和大使は、この取り組みで学んだことを戦争を知らない世代にも広く伝承していきます。

平和大使の活動

平和大使は、派遣を前に3回の研修会を行い、戦争



や原爆、市の平和祈念像や非核平和都市宣言について学び、広島へ向かう目的を確認しました。

広島市では、平和大使の

在学する中学校の生徒が作った千羽鶴を『原爆の子の像』に献納しました。この折り鶴の裏面には、生徒の平和への思いが書き記されています。また、全国から約150人の小学・中学・高校生が集まった『ヒロシマ青少年平和の集い』に参加し、意見を交わしまし

た。平和の旗を作るワークショップでは、平和への思いを形にし、自分たちの考える平和について発表しました。

広島平和記念式典当日は、約4万5000人が集まりました。式典には、平和大使の11人も参列。この貴重な体験は、平和大使の平和への思いをさらに強くしました。

平和大使は、現地で学んだ、平和の大切さを多くの市民に伝えていきます。

問合先
人権・国際課
☎23 9826

国際交流に関するお知らせ

参加者募集

国際理解講座『台頭するアセアンの最新動向』

9月21日(日)午前10時～正午・市民会館 伊東恭一氏(海外運輸協力会主任研究員)による経済統合を目前にしたアセアンの現況報告 先着80人 無料 住所、氏名、電話番号を書き、はがきかファクス、eメールで申し込む。

申込・問合先 市原市国際交流協会(人権・国際課内) (〒290-8501) ☎23 9826、FAX23 7252、✉iia@city.ichihara.chiba.jp

国際交流ひろば『来て!見て!話そう!』

9月28日(日)午前10時～午後3時・youホール 外国料理の試食や民族舞踊など 先着120人 600円(5歳から小学生300円) はがきかファクス、eメールで、住所、氏名、電話番号、参加人数を書き、9月19日(金)(必着)までに申し込む。

申込先 市原市国際交流協会(人権・国際課内) (〒290-8501) FAX23 7252、✉iia@city.ichihara.chiba.jp

問合先 人権・国際課 ☎23 9826



被爆関連施設の見学では、戦争の悲惨さを肌で感じた

活動を通して感じた平和の大切さ 被爆地の広島市を訪れた平和大使の話

自分の好きなことができる この生活が平和だと思う

姉崎東中学校3年生 市谷優樹さん



『広島市は原爆が投下されたところ』と漠然と知っていたのですが、実際に現地に行って原爆ドームなどを見たことで、戦争がより鮮明にイメージされました。同世代の中学生と一緒に行ったことで、お互いの思いや考えをたくさん話し合うことができ、平和をさらに深く理解できたと思います。

この派遣で一番印象に残ったのは『平和とは何だろうか』というテーマで行った意見交換会です。ある小学生は「メロンを食べられることが平和」と話し、また、ある中学3年生の女子生徒は「音楽ができることが平和だと思う」と話していました。僕は受験生ということもあり、勉強できることが平和だと感じています。やりたいことや興味は人それぞれですが、好きな食べ物を食べられたり、好きなことができたりする、これが平和だと伝えていきたい、そしてこの平和を守っていきたくて思いました。

姉妹都市の皆さん ようこそいちひらへ

モバイル市青少年訪問団が来市

今年で21年目の姉妹都市交流

市では、平成5年にモバイル市と姉妹都市提携を結びました。それを機に青少年の派遣と受け入れを交互に行っています。今年度は、モバイル市からの11回目の受け入れで、7月26日から8月4日まで、モバイル市青少年訪問団14人が訪れました。

訪問団は、県立市原八幡

高等学校で行われた交流会に参加し、同校の生徒と、茶道と書道を体験しました。書道体験では、同校の書道部員に書き方を教わり、慣れない筆遣いに戸惑いながらも、心を込めて文字を書きました。

今回の訪問団員は、武道に興味を持つ人が多く、ゼットエー武道場での弓道体験では、弓を引く難しさに驚いていました。

日本の文化を体験した



同世代の生徒に教わりながら筆を運ぶ

他、滞在中はホームステイで日本の日常生活を体験することにも、史跡上総国分尼寺跡展示館を見学し、本市の歴史も学びました。

問合先
人権・国際課
☎23 9826